

広報 さとうきび増収

サトウキビ単収8トン取りを目指して！！基本技術の励行で単収向上に努めよう！！

早春の候、さとうきび生産者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。24/25年産さとうきびの集荷も12月13日より始まり、約7割の集荷を終えました。集荷状況、さとうきびポリマルチ回収処分費用の負担、生産回復対策についてまとめておりますのでご一読下さい。

『平成24年産さとうきび生産見込みと集荷状況！！』

12月13日より集荷が始まり、3月10日現在の買入甘蔗糖度は平均13.61度と、例年に比べ甘蔗糖度は高い状況です。現在のところ、4月12日が受入終了日となっています。出荷に際しては、割当量の厳守をお願いいたします。



【平成24年産さとうきび生産見込み数量(3月10日現在)】

市町	年期	収穫面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	買入糖度 (3/10日現在)
西之表	24年産	841	5,295	44,531	13.61
	23年産	847	5,742	48,638	12.84
	対比(%)	99.3	92.2	91.6	106.0
中種子	24年産	1,442	5,620	81,040	13.63
	23年産	1,461	6,373	93,114	12.68
	対比(%)	98.7	88.2	87.0	107.5
南種子	24年産	506	5,500	27,830	13.54
	23年産	501	5,808	29,097	12.43
	対比(%)	101.0	94.7	95.6	108.9
合計	24年産	2,789	5,500	153,401	13.61
	23年産	2,809	6,082	170,849	12.69
	対比(%)	99.3	90.4	89.8	107.2

※23年産の収穫面積、単収、生産量については最終実績。
買入糖度については、3月10日現在の値。

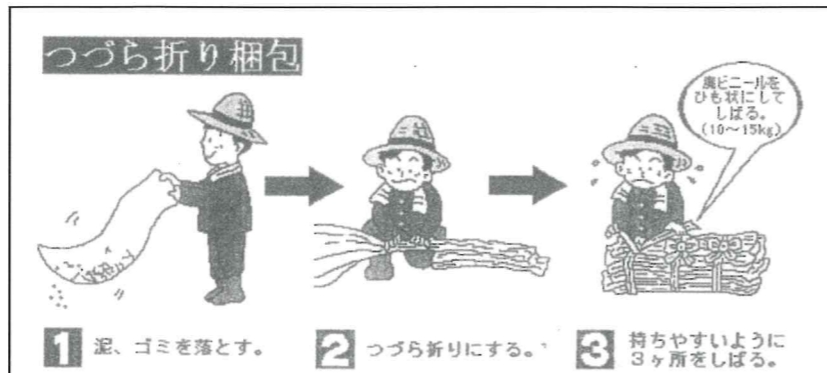
『さとうきびマルチ回収処分費用の負担と適正処理について！！』

ここ2年間の異常低単収を受けて、早期に生産回復を図る必要があります。低単収の要因には、気象条件の他に近年のマルチ被覆率低下も要因の一つとなっています。よって、生産回復の為に現在農家負担となっている、『さとうきびのポリマルチに限り、その回収処分費用を新光糖業株式会社で負担します。』

つきましては、現在のポリ被覆面積約「726ha」を「1,500ha」(新植面積の70%、株出面積の50%)まで被覆率を上げる事を目標に、単収向上に努めて頂きますようお願いいたします。

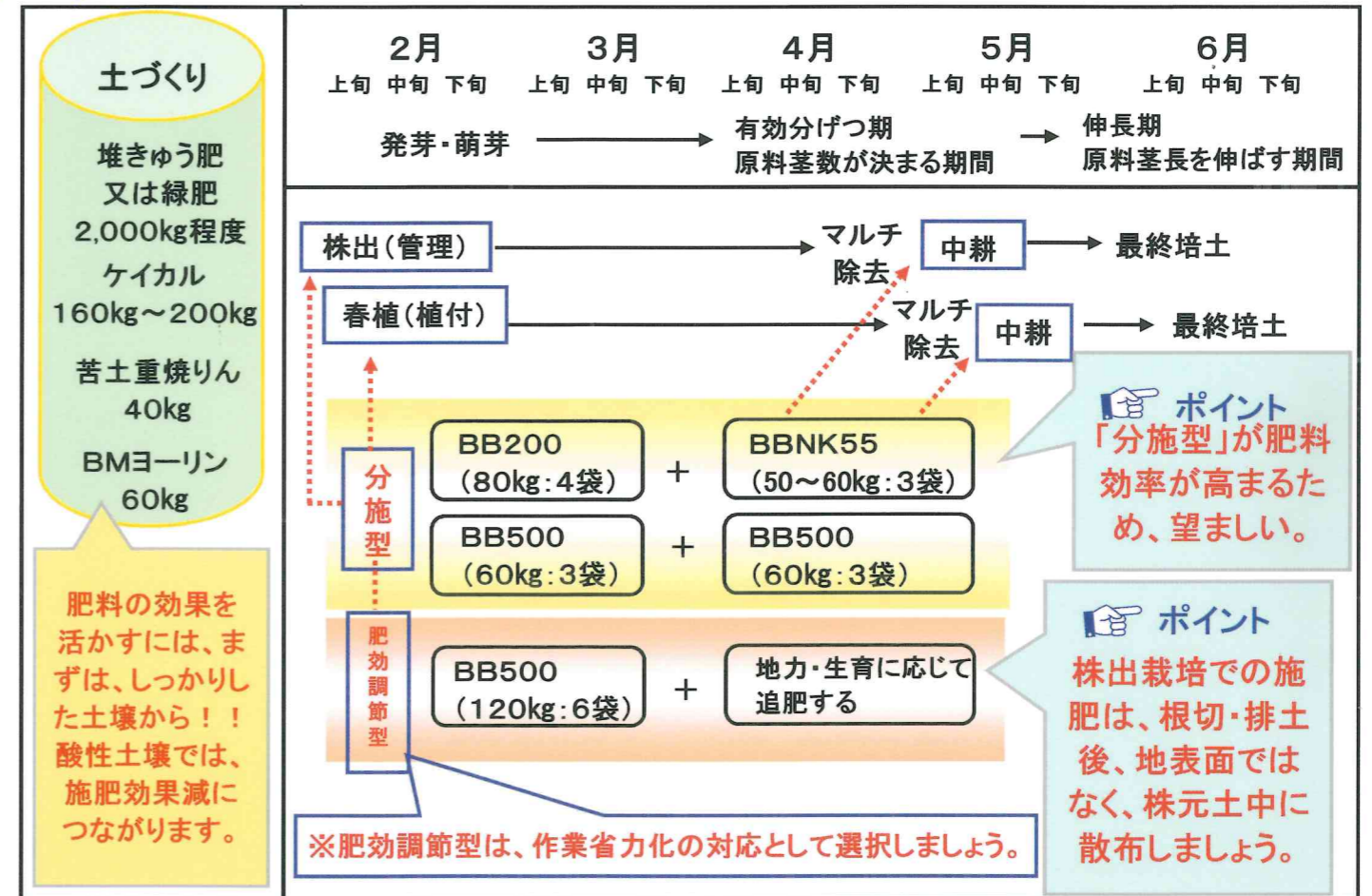
また、使用済みポリマルチの処理は、法令遵守に努め適正処理を行って下さいますようお願いいたします。

※詳細につきましては、チラシや防災無線等でお知らせいたします。



『生産安定は土作りから～適正施肥で収量アップ～！！』

適切に施肥管理を行い、肥料効果を高めて収量アップ。



『さとうきび生産回復～8トン取りに向けての実践項目～！！』

- ①種苗の更新 … 優良種苗への更新で、収量1～2割増。
- ②早期株出で安定生産 … 収穫後、1ヶ月以内に株出管理。
- ③マルチ栽培 … 欠株減少、萌芽・生育促進、茎数増加。
- ④土作り … 新植時に石灰・リン酸・堆肥を投入。
- ⑤早期高糖品種の導入 … 12月から高品質生産。
- ⑥作型の応用 … 株出3回型は全期間のマルチが必須。



マルチ被覆を徹底した圃場(南種子町島間横峯)